

都城工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育
科目基礎情報				
科目番号	0038	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械工学科	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	アクティブスポーツ【総合版】(大修館書店)			
担当教員	永松 幸一			

### 到達目標

- 1) 多くの運動やスポーツを楽しめる技能を身に付ける。
- 2) 運動やスポーツの楽しさを実感しつつ、自己の健康や他者への安全などに対して関心を持てるようにする。
- 3) 自己の能力に応じた運動を行い、生涯にわたって運動やスポーツに親しめる能力と態度を身に付ける。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	複数の運動やスポーツに参加し、積極的に技能を高めるための活動を実践できる。	複数の運動やスポーツに参加することができる。	運動やスポーツに参加することはできる。
評価項目2	自己の健康や他者への安全などを理解して、運動やスポーツの特性に触れながら、積極的に楽しむことができる。	自己の健康や他者への安全などを理解しながら、運動やスポーツに取り組むことができる。	自己の健康や他者への安全などを知識として理解している。
評価項目3	自己の能力などに応じて種目を選択し、その運動やスポーツの特性を理解しながら、生涯にわたって継続できる能力や態度を高めようとしている。	自己の能力などに応じて種目を選択し、その運動やスポーツを継続的に実践できる。	決められた運動やスポーツに参加することはできる。

### 学科の到達目標項目との関係

学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3 学習・教育目標・サブ目標との対応 4-3

### 教育方法等

概要	運動の欲求を十分に満たしながら、多くのスポーツを楽しめる技能を身に付ける。運動やスポーツの楽しさを実感しつつ、自己の健康や他者への安全などに対して関心を持てるようにする。自己の能力に応じた運動を行い、生涯にわたって運動やスポーツに親しめる能力と態度を身に付ける。
授業の進め方・方法	体育実技では指示された服装や用具(体操服・体育館シューズなど)を準備して授業に臨むこと。日常的に自己の健康および安全に留意しておくこと。今までの運動やスポーツ経験をもとにして、授業で取り組む種目などを選択できるようにしておくこと。物質工学科および建築学科の女子学生はダンスも履修する。
注意点	

### ポートフォリオ

### 授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1週	オリエンテーション	
	2週	スポーツテスト 球技(選択種目制)	各種スポーツテストを行い、自己の体力を把握する。基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	3週	スポーツテスト 球技(選択種目制)	各種スポーツテストを行い、自己の体力を把握する。基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	4週	スポーツテスト 球技(選択種目制)	各種スポーツテストを行い、自己の体力を把握する。基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	5週	球技(選択種目制)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	6週	球技(選択種目制)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	7週	球技(選択種目制)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	8週	球技(選択種目制)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	9週	球技(選択種目制) 水泳(クロール・背泳ぎ・平泳ぎ)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。
	10週	球技(選択種目制) 水泳(クロール・背泳ぎ・平泳ぎ)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。
	11週	球技(選択種目制) 水泳(クロール・背泳ぎ・平泳ぎ)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。
	12週	球技(選択種目制) 水泳(クロール・背泳ぎ・平泳ぎ)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。
	13週	球技(選択種目制) 水泳(クロール・背泳ぎ・平泳ぎ)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。
	14週	球技(選択種目制)	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。

		15週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	
		2週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		3週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		4週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		5週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		6週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		7週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		8週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	4thQ	9週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		10週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		11週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		12週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		13週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		14週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		15週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	2	前9,前10,前11,前12,前13
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	2	後6,後7,後8,後9,後10
			日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	2	前2,前3,前4
			ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	2	前2,前3,前4
			学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	2	前1,後1
			市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	2	前1,後1
			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	2	前5,前6,前7,前8,前14,前15
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後11,後12,後13,後14,後15
			先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協同行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	2	前5,前6,前7,前8,前14,前15
目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協同行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	2	後2,後3,後4,後5,後11,後12,後13,後14,後15			

			法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	2	前1,後1
			法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	2	前1,後1
			未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	2	前1,後1
			技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	2	前1,後1

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	技術および技能	合計
総合評価割合	20	0	0	10	0	30	40	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	0	20
専門的能力	10	0	0	0	0	0	40	50
分野横断的能力	10	0	0	10	0	10	0	30